

寺田縄の石仏探訪シリーズ（2）蓮昭寺（れんしょうじ）

寺田縄地区内の寺社や路傍にまつられている石造物（以下石仏と呼称）は50基あります。初回は吉祥院の釈迦如来と光明真言を主尊に下部に三猿を彫った珍しい庚申塔を紹介いたしました。今回は日蓮宗の蓮昭寺の境内に祀られている石仏を紹介いたします。



（1）題目塔（だいもくとう）

日蓮宗の寺院でよく見かけるのが「南無妙法蓮華經」と書かれた七文字でその中心の「法」の字を除く六文字は筆の先の先まで躍動感と力強さに溢れた文字で書かれた題目を髭題目ひげだいもくといいます。

蓮昭寺には題目塔が4基あります。写真の題目塔は歴代の住職の墓壇ぼたんの前にあり、正面には髭題目と日蓮聖人の花押が彫られています。向かって左面には五百遠忌おんき報恩謝徳ほうおんしゃとく、右面に建立年の天明元（1781）辛丑かのとし ねん 稔

十月十三日（聖人の命日）、當寺十四世 日性代にちせいだいとあります。日蓮宗では題目を唱えることは唯一の実践行じっせんぎょうといわれています。

（2）日蓮聖人七百遠忌を記念して建立された聖人銅像と石灯籠いしどうろう

聖人の記念となる遠忌に建立された題目塔をよく見かけますが、蓮昭寺には昭和56年（1981）10月の聖人七百遠忌に写真のような聖人の銅像と一対の石灯籠がまつられています。

灯籠の構造は下より基壇きだん（蓮華座）、奉納と彫られている竿さお、その上部が中台ちゅうだい、明かりを灯す火袋とも、蕨手の笠わらびて、

最上部が宝珠ほうじゆです。この灯籠は春日灯籠といい火袋の左右が雌メ或いは雄オスの鹿、三笠山、雲すのこ、篋くわ子が彫られています。

(3) その他の石仏



① 稲荷神社

蓮昭寺には山門前と境内に入った右側には鳥居の後ろに稲荷神社（左の写真）がまつられています。

寺田縄地区内にも屋敷神として多くの家庭にも稲荷はまつられています。土地の神、農業・商売の守護神として信仰されています。稲荷神社は写真のように狐に守られています。狐は財宝を生み出すといわれ稲荷神社のしんし神使といわれています。



② 地蔵菩薩（じそうぼさつ）

地蔵が子供を抱き又、地蔵さんにおすがりしている幼児の像容を見ると、子供の成長を願う子育て地蔵のようにも見えますが、後ろ側に供えられた卒塔婆そとうばには水子供養とあります。

水子は本来「すいじ」と読み、戒名の下に付ける位号の一つです。死産や乳児の頃に夭折したものに付けられました。戦後になって何らかの事情で止むを得ず中絶した胎児の霊を弔う供養も行われるようになりました。



③ 動物供養塔

家族同様に育てていた犬や猫などのペットの供養に建てたものを動物供養塔（どうぶつくようとう畜霊塔ちくれいとう）といいます。本堂裏の墓地の入り口に昭和59年造立とあります。供養塔の脇の立札には平塚市内を始め近郷の市や町からも埋葬されている記録があり、いつも献花で一杯です。

以上